序

平城京はその昔，唐の長安の都を４分の１に模して造営され，シルクロードの東の終点として，中国文化を導入し，「咲く花の匂うが如く」とうたわれた天平文化の華を咲かせたのでありますが，その歴史は1260年の輪廻によって繰返され，昨年２月１日には中国の古都西安市と友好都市締結をなし，友好往来の復活が実現したのであります。

この意義深い時期にさきに報告いたしました平城京朱雀大路発掘調査と併行して，新庁舎建設予定地（奈良市北新町61番地の１）の埋蔵文化財の発掘調査について奈良市庁舎建設地発掘調査委員会を設置し昭和48年，49年の２ヶ年にわたり行ってまいりました。

この地は，平城京の左京三条二坊にあたり，三条条間路（大宮通り）に面しております。

発掘調査の結果，坊内を画する小路跡を発見し，小路の幅員を確認し，更に条坊内を区割した「坪」といわれる区画内の建物の様子や井戸の遺構，数多くの土器等の出土品が発見される等貴重な基礎資料を得ることができました。今後は，この調査成果が平城京整備計画の資料として活用されるものと存じます。

我々は，奈良市 100年の大計として念願いたしております新平城京のまちづくり計画の推進と併せ，その新しい都心の中心核となる新庁舎建設を，この調査結果を生かした土地利用を図り積極的に生かせてまいりたいと存じます。

最後に本調査に対して，実際に発掘調査を行い報告書の作成を担当された奈良国立文化財研究所をはじめとする関係各位のご労苦に対し感謝申し上げ，奈良市庁舎建設地発掘調査報告書刊行のご挨拶といたします。

昭和５０年３月

奈良市長　鍵田忠三郎